

令和7年度「東海がん専門医療人材養成プラン」外部評価

<外部評価委員会 構成員>

がん関連学会の理事長経験者(医師)、看護系大学の教授(看護師)、大学病院薬剤部の教授(薬剤師)、がん患者団体の推薦を受けた代表者、医療系ジャーナリスト、東海地域の保健行政に関わる者 など

<評価の数字について>

5:目標の達成状況が非常に優れている
2:目標の達成状況が不十分である

4:目標の達成状況が優れている
1:目標の達成のためには重大な改善事項がある

3:目標の達成状況がおおむね良好である

■本年度の補助事業実施計画	進捗状況	評価についてのコメント
① 各大学において大学院コース・インテンシブコース開始	4	各大学の正規大学院コース、インテンシブコースともに概ね学生の確保はできおり、順調に教育が行われているものと推察できる。
	3	概ね良好であるが、コースによって受け入れ数に0%～800%と大きな差が認められる。特にテーマ2の「がん予防コース」およびインテンシブコースにおいて施設間の隔りがある。
	4	計画通り、大学院正規課程コースとインテンシブコースを計画通り開始しており、リアルタイムおよびオンデマンドで受講できる連携共有講義を「学びばこ」を大いに活用し多数開講している点は評価できる。しかしながら受け入れ人数に達していないコースも複数あり、対策の検討が望まれる。
	3	各大学のすべてで、両コースを開始している。ただし、各大学ごとに受入人数に差が生じており、勧誘方法や各大学の役割(ある大学は「大学院コース」に注力する等)の検討が必要とも考える。
② 東海がんプロ協議会(年3回)	4	予定された回数の協議会が実施され、進捗ならびに運営上の課題などが協議されており、愛知県がんセンター病院長を招聘して地域連携を深めている。
	4	多数の協議会委員のもと計画通り開催され、さらに協議会外部委員として、愛知県医師会役員ならびに愛知県がんセンター病院長を加え、地域連携を深める努力は評価できる。
	3	適切に開催され議論、情報共有が行われている。
	4	昨年に引き続いて、東海がんプロ協議会を定期的に行って開催して、事業の進捗を管理しているのは高く評価されます。議事録もきっちり残して、真剣な議論をしながらがんプロ事業を進めていることがよくわかります。
③ 東海がんプロセミナー開催(年6回)	4	各大学ごとに、併せて年6回以上のセミナーが開催されている。内容は、各大学の役割や特性を基に企画されていると思われるが、協議会の場で、役割分担等を踏まえた内容の検討が行われるとよいと考える。
	4	予定を上回る7回のセミナーをいずれも多く参加者を得て開催したことを評価します。セミナーのテーマは第4期がんプロに即したものであり、国際セミナーもあり素晴らしい内容と思います。可能であれば参加者の属性や評価など詳細をアンケート調査して頂ければ参考になると思います。
	4	各大学が特色ある内容のセミナーを開催している。また、学びばこにおいてオンデマンドで配信する取り組みは履修生にとって効果的であると評価される。
	4	学会との共催セミナーを含め、計画以上のセミナー開催および他のがんプロ拠点とのシンポジウム共同開催など、活発な活動は評価できる。

④ 市民公開講座(年2回)	4	2回の予定にさらに1回追加で開催して頂き、テーマも一般市民の興味を引くものになっており、多くの参加者を確保して盛況であったと思われます。アンケート調査から満足度も高かったと思います。
	4	多くの参加者があり充実した市民公開講座であったと推察できる。
	3	各大学ごとに、併せて年2回以上の市民公開講座が開催されている。公開講座の受講者による評価の記述がないため、有用であったかの判断ができない。
	4	活発に取り組まれた印象を持つ。ゲノム医療等は患者側の関心も高いと思われるが、講師やパネリストとして患者側の参加は考えられていたのだろうか。
⑤ 外部評価の実施	4	外部評価委員による外部評価が行われ、次年度には協議会において、議題として挙げられ、改善のための検討が行われている。
	2	多岐にわたる長文の文書を読んで、数字5段階で評価を記入・返信するのみで、十分な外部評価が達成できるとは考えにくい。活動の当事者の方のお言葉で実感が伝わる報告を聴いたり、委員との質疑応答をしたり、「人と人のコミュニケーション」の中から、質の高い外部評価が達成されるのではないのでしょうか？
	4	外部評価の結果は東海がんプロ協議会で共有され、Webサイトで公開されている事、また今年度の事業計画に反映されていることは評価できる。さらに、大学院正規課程コースの履修生へのアンケートが実施されたことも評価できる。しかしアンケート回答者は38名と入学生の36%、2学年とすると18%であり、履修生の意見が反映できているのか疑問である。
	4	履修生のフィードバックを得ることを目的としてアンケートが実施され、自己評価のみならず外部評価も行われている。
⑥ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加・FD実施	3	各大学の教員が国内外の学会に積極的に参加し、またアカデミックハラスメントを中心とした東海がんプロFDを実施したことは評価されます。
	3	興味深い内容でFDが実施されたことは評価できるが、参加者が限られていた。国内外の学会への参加状況もおおむね良好であるが、報告がない大学が1校あった。
	3	予算の問題もあるとは思いますが、ASCO, ESMOなど海外のメジャー学会に参加できると、さらなる最新の情報収集につながると思います。
	4	アカデミックハラスメントなど、今後の教育における重要点について知見を深めている。